

旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会
第3回資料

平成27年 9月1日

福岡市

	検討委員会や先進事例調査でのご意見 (第1回, 第2回)	まちづくりの取り組みイメージ (案)	まちづくり構想への反映				
			前提	方向性や空間構成			今後
			2	3	4	5	6
新たな視点が備えられるべき性能など	<p>① 歴史文化性</p> <p>★文化財的な価値を保存して継承していくとともに、地域が歩んできた歴史をこれからの世代に伝え、地域の歴史を継承する役割がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南校舎は、昭和4年建築の鉄筋コンクリート造の建物として、福岡市では貴重なものであり、文化的な価値も高く、ぜひとも残して欲しい。 ・老朽化した建物管理は大変。南校舎については、玄関周りを残し、公民館などを増築するなど、新しいものと一体的に整備してはどうか。 ・校舎を利用した公民館も考えられるのではないかな。 ・国際観光都市としてナンバーワンのレストランでは、まちづくりの特徴である「歴史的建造物との共存」ということを戦略的にやっている。 ・大名小出身の著名な方の足跡を残していくことも必要ではないかな。 ・都市の資産づくりという視点から、今後、文化的価値もある校舎を活かし、これをどのようにブランド化するのか、どのような空間をつくり込むのが課題。 ・場における様々な活動の中から文化が生まれてくることから、ハードをつくるだけでなく、継続的な活動があるということが更に重要になってくるのではないかな。 ・建物全部は残せないとしても、一つ一つの細部に人々が生きた歴史が残るような仕掛けがあるといいのでは。 ・小学校であった歴史を踏まえると、多くの世代にわたり人を育てる場であり、ひいてはまちづくり、都市の成長に繋がる大事な場所になっていくのではないかな。(三菱一号館街区) ・三菱一号館の復元による歴史の重厚さや建物デザインや景観の美しさが印象的。 ・歴史的建物と新しいビルとのハイブリッド感(複合感) ・銀行室を喫茶店にうまく用途変更していた。旧大名小は中央階段周りがメインなので、階段両サイドの教室と合わせて何かできないかな。 ・三菱一号館の復元によるシンボル空間の再生等の取り組みは必要、又はできるならば必要。(アーツ千代田3331) ・民設民営の仕組みは魅力的だが、文化財的見地からは旧大名小校舎を改造も含め一括貸与となると、特徴的な意匠等が担保できないため、望ましくないのではないかな。 ・校舎の維持・管理費の負担が大きく工夫の必要がある。 	<p>■校舎を活用し、地域のシンボリック空間を整備する</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p> <p>■まちや人の歴史に新たな付加価値を加えることで、都市の文化としていく場づくり</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>					
	<p>② 創造性</p> <p>★大名地区に色々な要素が混在していて、混在している良さとして人間の想像力を掻き立てるような地域の魅力を創り出している。これまでの経緯を踏まえ人づくりや活動づくりの場になってほしいということで、創造性という言葉で代表されるような役割を強調しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名ならではのテーマ(歴史・若者の文化・食など)を情報発信できるような場にしてはどうか。 ・天神や大名はクリエイティブ(創造的)な人材が多く集まっている。跡地が、旧大名小などの歴史を踏まえながらも新しいものやイノベーションを生み出すための場になると、さらに創造的な人材の集積が起こるのではないかな。 ・新たな価値を生み出すには、新しい考え方やアイデアが必要であり、その推進力は人だと思ふ。クリエイティブな人たち、やる気のある人たちが集まる場を創るべき。 ・天神や大名をクリエイティブな人たちの集積により、新しいイノベーションが生まれるエリアにしていくとともに、そのエリアの効果的な場所である旧大名小跡地を、新しいもの、イノベーションを生み出すためのアンカー(礎)としてはどうか。 ・海外都市でも、ターミナル駅と大きな公園との間にある街は個性的かつ、活性化している例があり、大名地区もその可能性を有しているのではないかな。 ・大名の創造性は非常に魅力的であり、創造性は子どもや若者の教育とも深く関わる。将来の福岡を担い創造的に未来を創れる人を育てる場としての役割を引き続き担ってはどうか。(三菱一号館街区) ・広場やカフェ・美術館など一体的に活用することで、都市型MICEのユニークベニューとしての活用が可能ではないかな。世界の方々に福岡や大名の近代の歴史を知ってもらえる機会にもなるのでは。(アーツ千代田3331) ・創造的な場づくりとして、使い方や空間整備の面で参考になると感じた。 ・区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・実験的なことができる場所を求めているアーティストや企業にとっては有機的な関係を育てやすい運営形態と思う。 ・アートに特化しているのでまとまりが良い。人がポイントとを感じるが、福岡で人材確保できるかが課題。 	<p>■新たな価値を生む人、モノ、コトが交流する場づくり</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p> <p>■クリエイティブ(創造的)な活動を促す空間整備</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p> <p>■イノベーションを生み出すアンカーとなる人や活動を集積させる空間整備</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>					
	<p>③ 居住性</p> <p>★大名地区は住民のくらしがあるまちであり、居住性が確保されなければならない。住み続けるまちであるため、子どもや高齢者の方々が楽しめる地域の遊び場やレクリエーション機能も兼ね備えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名地区は土日は多くの歩行者で賑わう一方、歩道上に並ぶ放置駐輪問題は深刻である。 ・子どもから高齢者まで安全安心に暮らせるまちとしての要素を備える必要がある。(広場など) ・都心部で利便性が良い場所にあるため公民館利用者は多い、活動する場があると利用する人、ニーズは多いのではないかな。 ・跡地の今後の位置づけ次第では風営法の規制が無くなり、生活環境の悪化を懸念している。 ・大名1,2丁目には十分な規模の広場的空間が不足している。 ・風営法の規制がかかるような施設を立地してほしい。 ・不特定多数が利用できる場となった時、広場が校舎の陰になるなど治安上不安。以前の警固公園のようにならないよう利用者の管理がしっかり出来る場となるように考えてほしい。(アーツ千代田3331) ・大きなくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができたり、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。 	<p>■暮らしを支える機能として、多目的な空間の整備(配置・経路等の検討を含む)</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p> <p>■暮らしを支える機能として、公民館の移転改築(配置・経路等の検討を含む)</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p> <p>2-④生活環境を悪化させない取り組みの検討</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>					
	<p>④ 防災性</p> <p>★突発的な災害時に果たすべき防災機能が跡地には必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県西方沖地震の経験をふまえ、災害時の機能として避難場所が必要。 ・避難場所や施設等は防災拠点として役割を果たせるものとし、規模や配置、経路などを検討してほしい。(三菱一号館街区) ・空間が細かく区画されすぎている。 	<p>■暮らしを支える機能として、現在の運動場と同等面積の広場の整備(避難場所、交流やレクリエーションの場所などで利用、配置・経路等の検討を含む)</p> <p>○ ○ ○ ○ ○</p>					

	検討委員会や先進事例調査でのご意見 (第1回, 第2回)	まちづくりの取り組みイメージ (案)	まちづくり構想への反映							
			前提	方向性や空間構成	今後	2	3	4	5	6
⑤一体性	<p>★校舎の保存、利活用を含めた跡地利用と、跡地周辺や天神地区を含めた土地利用、施設利用との一体性、一体感を創り出すことが重要。更に周辺施設の建て替えなども協調して連鎖型でまちを創るなど周辺地域の更新との連携を強く意識して欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントが実施できるなど都心部一体の賑わいに繋がるような場も必要ではないか。 ・ 東西の賑わいの連続性という視点から、大名を含む広い意味での天神、都心部一体の街の賑わいにつながるような場にしてはどうか。 ・ まちと学校には閉鎖的な壁があるのでこれを開放的なものとし、皆さんが気軽に利用できるような施設が良い。 ・ 大名～天神という広い視点において、天神で起ころうとしている機能更新を、旧大名小学校跡地を活かして、東京の大手町・丸の内・有楽町地区のような、連鎖型でまちをつくっていくことも検討してはどうか。 ・ 今回、学校からの土地利用転換する「変わり方」が問われているし、跡地に隣接する施設との関係も大事になる ・ 天神・大名地区の今後のまちづくりでは、跡地が大事な種地になるような気がする。 ・ まちは均質化してはおもしろくない。大名にしかない創造的な魅力と、明治通り側の噴爽としたビジネス空間などの「変化に富んだまち」は人を引きつける魅力となっております。これが体現できる拠点としてはどうか。 (三菱一号館街区) ・ 広場を囲み三菱一号館やビル低層階にカフェ等が配置され賑わいを創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 旧大名小跡地だけでなく、周辺のまちづくりや機能更新との連携も考慮すべき。 (アーツ千代田3331) ・ 区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 地域住民はじめ、誰もが自由に使える憩い、交流できる空間づくり(1階コミュニティスペース、カフェ、ショップ、屋外デッキ、公園など) 	<p>■校舎、広場、新たな土地利用によって一体性を持った空間を整備する</p>								
	<p>■天神・大名地区を一体として考え(街区内外や天神地区などの)機能更新を捉えたまちづくりを検討する</p>									
	<p>■跡地と周辺地区をつなぎ、人・モノ・コトを集める”マグネット”となる</p>									
⑥回遊性	<p>★大名・天神地区と一体感をもったまちとして捉え、歩行者が楽しんで歩けるような一体感のある地区間の回遊性を創り出すことが重要であり、地区内の東西、南北を繋ぐ回遊性に配慮した跡地利用とすべき。また、地区間の回遊性については、デザインもきめ人を引きつけるマグネットのような魅力が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天神から舞鶴・大濠公園地区をつなぐ東西の人の流れを受け止める場づくりや、明治通りとえのき通り間の人の流れを創出する、南北に跡地を通り抜ける動線づくりも必要ではないか。 ・ 今は東西方向に校舎が建ち、南北を壁のように塞いでいるが、南北方向にどのように抜けていくのか検討する必要がある。 ・ 天神～大名のつながりは非常に重要であり、天神地区に集積する交通機関からわき出てくる人をどうやって受け止め、回遊させるかが重要。 ・ 回遊性に関して、人を惹きつけるようなマグネットのような魅力が持つべきであり、そのためにはデザインという要素も重要になる。 ・ 天神、博多との回遊性を考えた時、大名地区にはブランドがあり、まちを散策するなど、精神的、時間的なゆとりをもって安心して歩けることが非常に重要となる。 (三菱一号館街区) ・ 街区内を通り抜けできる歩行者動線の確保は回遊性の向上に寄与している。 ・ 一方、広場の存在を知らなければ、通り過ぎてしまう可能性もあると感じた。 広場のつくり込みへの評価 ・ 建物に囲われた広場の配置(囲われ感)により、居心地の良い空間が印象的と感じた。 ・ ゆったり感はないが、配置の工夫などにより圧迫感を感じないデザインがされている。 ・ 広場に面した建物1階におけるカフェや店舗などによる憩いや賑わいの創出。 ・ ベンチが多く休憩しやすいことや、噴水、季節の草花などを配するなど、憩いと潤いの空間を創出。 ・ 鳥の声、噴水や流れる水の音など五感に訴えるガーデンは素晴らしい。 (アーツ千代田3331) ・ 大きくくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができたり、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。 	<p>■東西の人の流れを受け止める回遊拠点づくり(天神地区の西のゲートとして、大濠公園・舞鶴公園地区とつなぐ)</p>								
	<p>■人を引きつける魅力的な施設・空間の整備</p>									
	<p>■人の流れを創る回遊動線の確保(快適な歩行者動線、南北通り抜け動線など)</p>									
⑦全国モデルになる	<p>★全国で進む統廃合における学校跡地活用のモデルになってほしい。そのためには、地域、専門家、民間の知恵を借りながら進める「検討のプロセス」、「公・民・学が連携する取り組み」、跡地整備と整備後の運営に関わる「デザインとマネジメント」のしくみづくりが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跡地が整備された後も、その場の運営に関わるようなマネジメントの仕組みや組織も重要になる。行政・大学・民間事業者・住民・市民などを含めた「公」「民」「学」連携の取り組みも検討してはどうか。 ・ 既に大名で起きている人の活動からものが生まれる一連の流れを知り、まちづくりのアイデアを生みだしていけたら良い。 ・ 跡地利用のあり方は、周辺地域も含めた10～20年後の地域の姿を共有し、まちづくりの観点から長期的な展望に立ち考えていくべき。 ・ 空き状態が長く続くことはないことにならない、スムーズに跡地を転換していくマネジメントが必要。 (三菱一号館街区) ・ エリアマネジメントにより魅力的な維持管理がされている。 ・ 民間事業者の開発において魅力的で継続性ある施設運営がされると共に、ニーズを的確に捉えた運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 長期的に開発にコミットするデベロッパーの存在は重要。 ・ 大丸有地区のまちづくりが成功しているのは、三菱地所の尽力が大きい。計画を実施していく事業主体の必要性を感じる。 (アーツ千代田3331) ・ アートに特化しまとまりが良い。人材がポイントと感じるが、福岡で人材確保できるかが課題【再掲】 ・ 民設民営のアーツ千代田3331では、利用者ニーズを的確に捉え、小回りのきく臨機応変な施設運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である(その際地域の関与を必要とする意見もあり) ・ 有名人がオフィスとして入居したり、主催セミナーも発信力のある講師陣がいるなど、人的ネットワークがしっかり構築されている ・ 地域のコミュニティスペースの役割を果たす中で、収益をまちづくり資金として活用するスキームは一石二鳥だと感じた。 (全般) ・ 旧大名小跡地活用は官民連携になると思うが、公共で全てのインシヤチプを取るのには困難。いかに民間活力を引き出すかが重要になる。 ・ 場でのどのような活動が生まれるのか、ソフトが重要であることを再認識、どのような人がどのように関わる場にするのか考えるべき。 	<p>■運営含めたマネジメントのしくみづくり</p>								
	<p>■公民学の連携によるしくみづくり</p>									
	<p>■円滑な機能更新に向けた取り組み</p>									

新たな拠点が備えるべき性能など

1. 旧大名小学校跡地まちづくり構想について

●跡地活用に際しての基本的な考え方を整理するまちづくり構想の位置づけについて記載します。

2. 旧大名小学校跡地まちづくり構想の前提

(1) 上位計画

●各上位計画から旧大名小学校跡地に関連する項目について記載します。

① 第9次福岡市基本計画(H24.12改定)

② 福岡市都市計画マスタープラン都心部編(H26.5改定)

③ 「グローバル創業都市・福岡」ビジョン(H27.3)

都市像Ⅲ グローバルビジネスを呼び込む高次都市の実現に向けて
戦 略7 世界で活躍する企業や人材を引きつけるビジネス環境をつくる

(2) 地域と定めた跡地整備に関する事項

●地域と定めた跡地整備に関する事項について記載します。

(3) 旧大名小学校校舎の活用

●校舎に関する文化財的評価のための調査報告（デザイン・構法等がすぐれている など）について記載します。

3. まちづくりの方向性

(1) 地区の個性・魅力

●旧大名小学校跡地をとりまく地区について特性ごとに分類し、整理します。

①大名地区

（界隈性のある街並み・若者を育む場所・創造的な環境や人等の集積・暮らしの見えるまち など）

②天神地区

（商業・業務施設の集積・交通拠点の集積・地下歩行者ネットワークや賑わい拠点の充実 など）

③大濠公園・舞鶴公園地区

（歴史・芸術文化・観光の発信拠点）

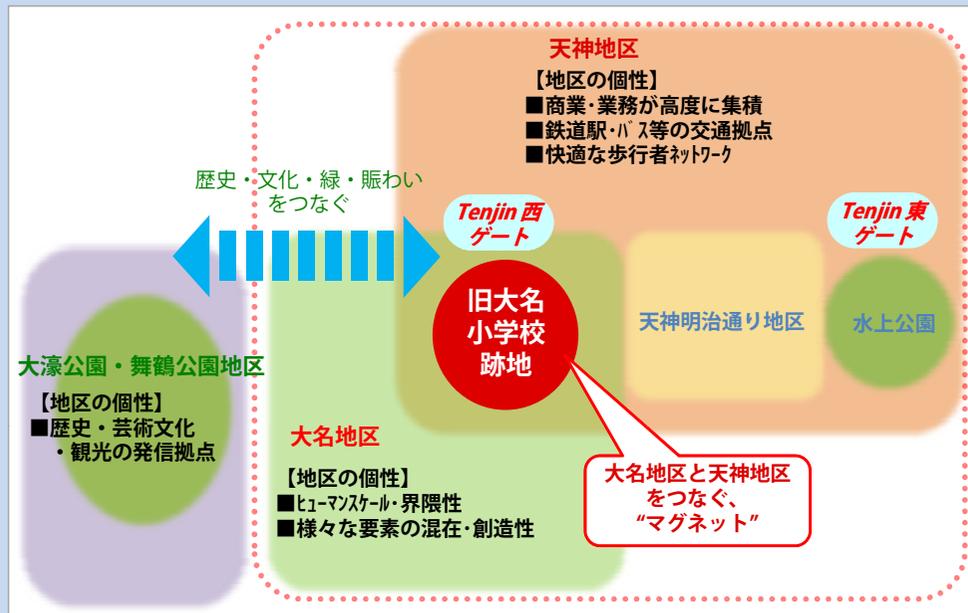
(2) まちづくり上の課題

●まちづくり上の課題について、整理して記載します。

- ・大名地区は、都心にありながら住民の暮らしがあるまちであり、暮らし続けられるまちづくりへの配慮が必要
- ・大名地区は、長大街区や敷地が小規模であり、東西・南北の歩行者動線や広場的な空間が不足
- ・大名地区は、土日は多くの歩行者で賑わう中、歩道上に並ぶ放置駐輪が課題
- ・都市の資産づくりという視点から、ブランド化に向けた空間づくりについての課題
- ・長期的な展望に立ち、更新期を迎える天神地区との連携、連続性を考慮すべき

(3) 天神地区・大名地区のまちづくりの方向性

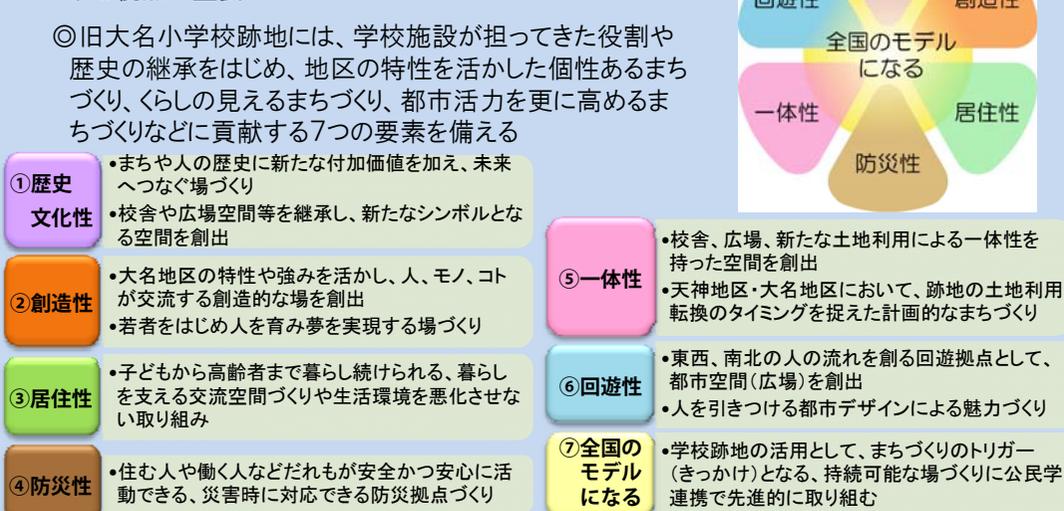
- ◎まちなみや人の流れを繋ぎ、都心部の活力等を向上
- ◎天神地区の西のゲートとして、大濠公園・舞鶴公園地区の歴史・文化や緑・賑わいをつなぐ
- ◎旧大名小学校跡地は、天神地区と連携し、大名地区の個性を引き出し、まちに厚みを加える機能・空間を形成し、両地区をつなぐ“マグネット”となる



(4) 旧大名小学校跡地のまちづくりの方向性

【旧大名小学校跡地に備える要素】

- ◎旧大名小学校跡地と周辺地区をつなぎ、人・モノ・コトを集める「マグネット」となるための“新たな拠点”を形成する視点が重要
- ◎旧大名小学校跡地には、学校施設が担ってきた役割や歴史の継承をはじめ、地区の特性を活かした個性あるまちづくり、くらしの見えるまちづくり、都市活力を更に高めるまちづくりなどに貢献する7つの要素を備える



4. まちづくりのテーマと跡地に備えるべき機能のあり方

(1) まちづくりのテーマ

人を育てる場所、そして都市を育てる場所へ
生まれ変わります

- ◎子どもから大人までが集う「人を育てる場所」を創ります
- ◎都市を担う人・モノ・コトの交流を促す「都市を育てる場所」を創ります

(2) 跡地に備えるべき機能のあり方

- ①拠点性を高める機能**
 - ・都市の成長を牽引する新たなビジネス創出の拠点
 - ・安全安心な防災・暮らしの拠点 ほか
- ②天神地区・大名地区の特性を引き出し強化する機能**
 - ・クリエイティブな人や企業・若者や女性が活躍できる拠点
 - ・次世代を担う人を育てる拠点 ほか
- ③シンボルとなり交流の中心となる空間**
 - ・回遊拠点として、市民が憩い、やすらぎ、楽しみを体感できる都市空間の創出
 - ・歴史を今・未来へつなぐ空間『(仮称)ときの広場』の整備 ほか

※『(仮称) ときの広場』のイメージ

人・モノ・コトの交流を促す場として、「(仮称) ときの広場」を備えることで、跡地に導入される様々な都市機能が広場を介して相互に連携し、新たな価値を創出する場づくりをめざします



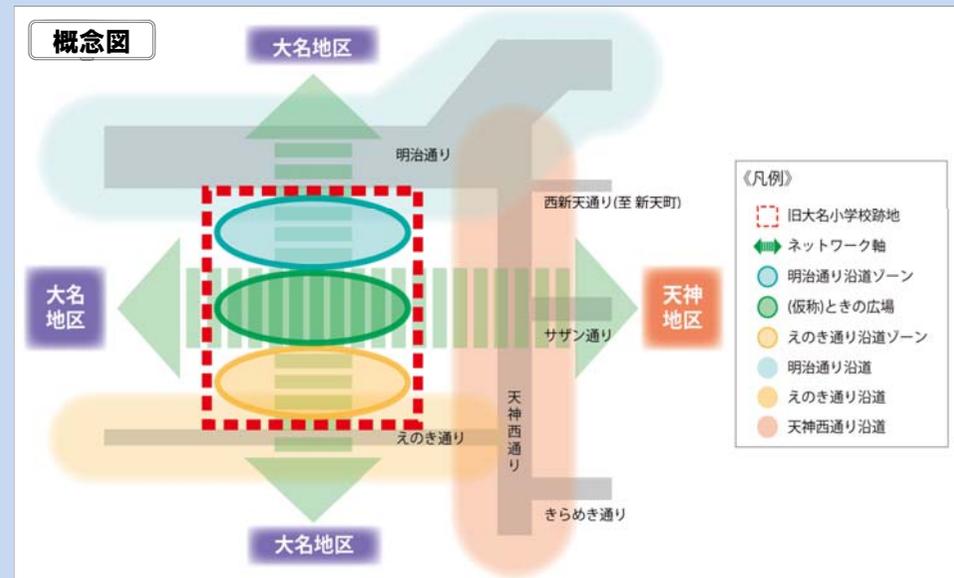
■アオーレ長岡 (出典:長岡市HP)
【「ナカドマ」広場面積 約2,250㎡】



■富山グランドプラザ (出典:富山市HP)
【広場面積 約1,400㎡】

5. 空間構成のあり方

- (仮称)ときの広場……跡地の中心に配置、憩いと賑わいの拠点
- ネットワーク軸……西通りの賑わいを引き込み、大名地区と天神地区をつなぐ
- 明治通り沿道ゾーン……天神地区と大濠公園・舞鶴公園地区をつなぐメインストリートとして、緑の連続性などに配慮した風格のある街並みを形成
- えのき通り沿道ゾーン……校舎を活用し、歩いて楽しい賑わいある街並みを形成



6. 今後の検討課題

●まちづくり構想の策定後、跡地利用を具体化していくにあたっての検討課題について、記載します。

- ①都市文化の形成に向けて**
 - ・維持管理や地域の歴史を継承する施設やしかけとあわせた、校舎の活用範囲
 - ・場における様々な活動の中から文化が生まれてくることから、継続的な活動が続くしくみ
- ②安全・安心・快適に暮らせるまち**
 - ・広場や施設等は、防災時の拠点として役割が果たせる配置等
 - ・風営法の規制が無くなり生活環境の悪化が懸念されることに対する取り組み等
 - ・繁華街に位置する広場の子どもから高齢者までが安心してすごせる管理上のしくみ
- ③創造的な場づくり**
 - ・創造的な人や企業を更に集積させるしかけやしき
 - ・継続的なまちづくり活動の拠点づくり
- ④持続的なまちづくり**
 - ・「公」「民」「学」連携のマネジメントのしくみ
- ⑤円滑な機能更新に向けて**
 - ・更新期を迎える天神・大名地区における貴重な空間であり、連鎖型まちづくりの視点